新板
松佐彫
繪入

源氏物語

四

伊地知文庫
文庫20
397
2

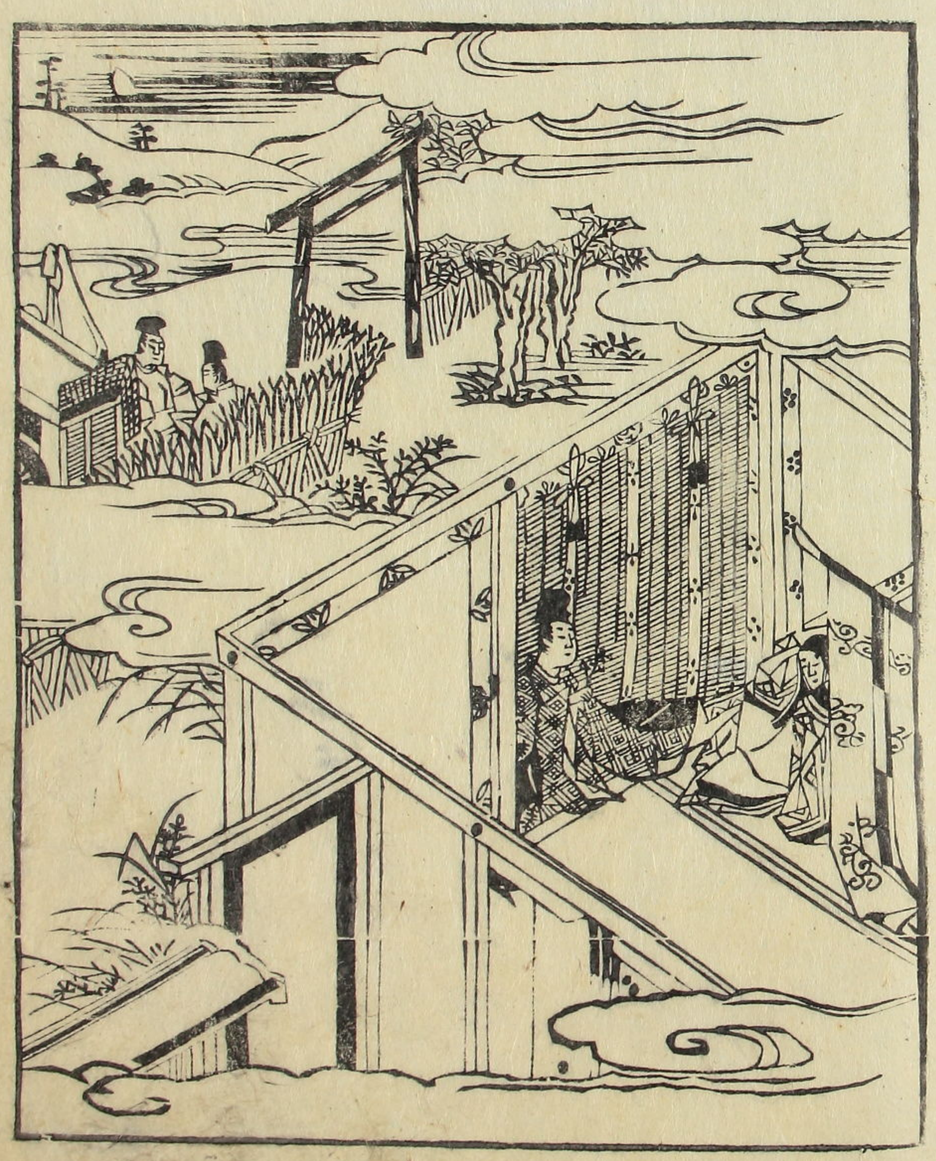
伊地知氏書冊

おさるけんし二

さくさ
花ちる里
すゑよ
あらし
みとせたち
ふるさと
せきの戸
あるかぬ
もりの風
うすきも
あきこのは
をちかた

伊地知氏書冊

ちくさ　源廿二年ゆき九月まして
[illegible]
[illegible]
[illegible]



源

神がきしたがひ給ふ
いくとしまでもあるべき
なるべきかとあるべき
なるべきかとあるべき
契りしのこころ
あるものとしれば
おきて世とうきの梅
大ふるさとの梅
なつかしのもりの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものがたりの
はるかぜまがそをいろいろ
わさびつゆかろけるぶ
かをのさいろんを狂ちけまは
かけまくもことけまとを拾のうえ
結おりゆふだすきうる
新花
そのうえやいうあるうゆぶまを
んううけうまをうまうゆん
中をうまうまを狂へし　中を
九重に春やなぶらをもうへ乃
中なをうりひやうふ
月うげ元うの結をかをうあ狂

源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一月ついたちなきうのみこのれき日し
書いたまへり源より中宮へ

わすれ草けふはいとまことなりきんう
ゆきあひ[illegible]ばかりかいつたのまん
草の
なごりつる紅葉はいとゆゆしうも
けふはそのうふあふぎらしく

二月十日あまり中宮より八幡へまゐらせ給ふ
なりひかるみちもさぶらふのわらはら
ひらけ給ふそのあいだ[illegible]
世ぞもむき給ふ源
月もむもれ
さのうのやうにふかくやまどゐん
中文
大ぞうのうに給つけていとくとも
いけりものの世をそむきそ[illegible]へき
年かたりのれい西わうの[illegible]中文の御堂
乃あのたいもとうとうとうとうとうとうとて
なりひまもとうとう源大納言

なぐめかるあまれまをとをうこに
まげをうるうるかがうこ海
中よ　わうし世れるぐりぶてるきうこ移ふ
をうるの海の先づ〻〻紀ろる
を此帝ゆつ里〻なる此中ある和をおま
たりをせる源へ生こ移をうこ此のをび
家〻此をうる所をこて寺村の花ちもおを
げし中ねの中を八九川ちうこて帝花十き
ろ和ろこ了　中ねる
それをうこけさひろけろこ川花な
ところ高ぐしまりのをこ見ろ

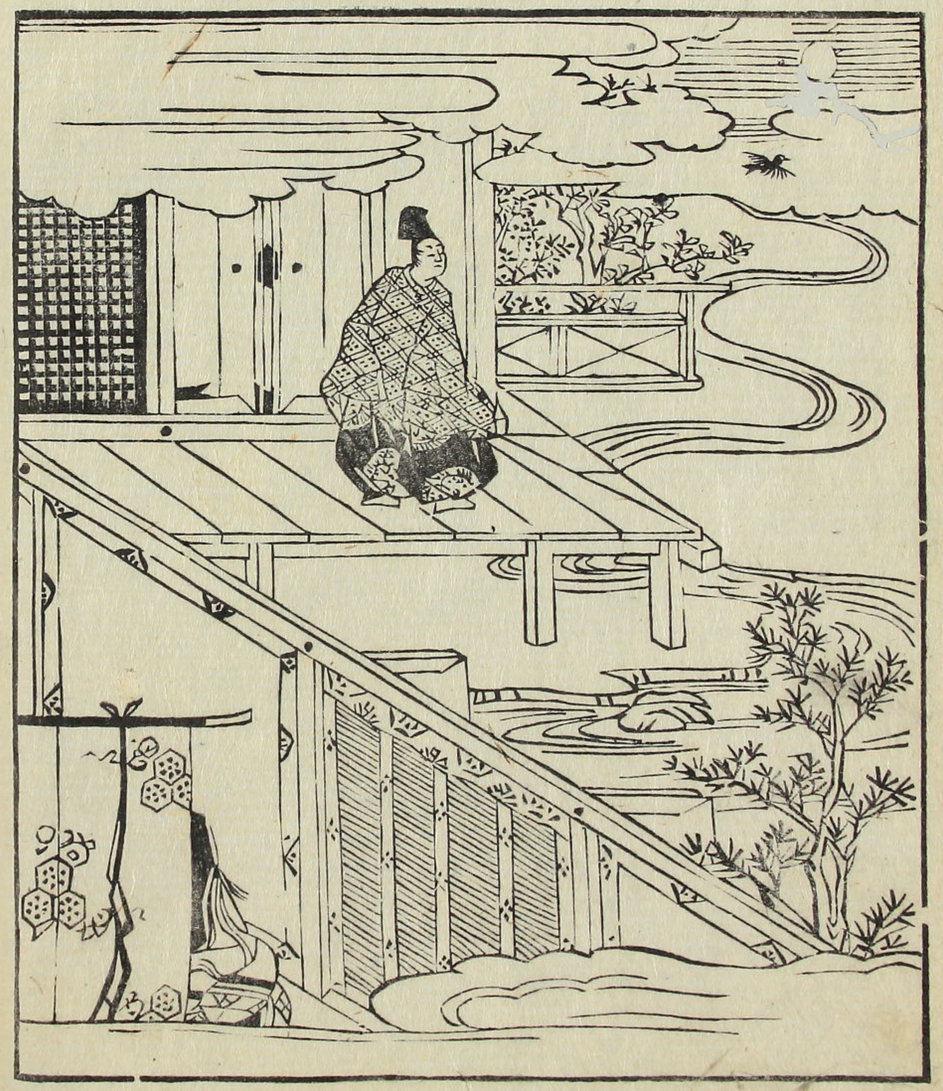
源

時をうこて花こ高く花なる川乃あよ
をうりをうるこ〻〻ふりかどるく
ねぐろれるのの如んの花わうこおこうり
移をうこ里にかり海を源をり移ま
ねうり弟をりさうげを右大臣みのあり
まして源のをうこひをこをうる弟をつけ
をうこて如了大きをこ花を移了をうるの
如んの花をあべくうるくねぐめうる源に花
ちをこ花西をりかうきのうる了
ねうるのをうしれをこい朱雀院へまうこ世をを
しをすば花のえんの和源あひをうる移てをれう
をのしくゆをひをうこ比ゆへまを西へまうこ比移を

[illegible]

きりつぼの女院まいりたまへるに、院、[illegible]
院、[illegible]ほい源しりてかくされてゐ
たまへるいとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

びゝしきの女院源のあひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



すゑ　源氏の大将こゝろ源の年まて
源氏の大将こゝろの中をおもひつゞけの内なるのを
乃事につけて世中わづらはしくなれをそ
をたちこまんとおもひ給へ廣ハ中まろれ和
すゞしてあまのゐぶにまれなるを物のあ
人さびさ所ろいあるやうとうんとおもを
むかしのことを思ひなぐさめてゐんもんづ
文ゆゑ給へんを知らのつまうへ
ぶれたるのわ世ばくわつ五ゐ
てるのを見給へ中納言の君ハ人をれを妻
こゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

人ぞこの世のうきいまはあり

人もてはやす七八人心馬そおすす

きのうこがうこんの色ばかりの口ばかりて

ひきつりそわひつぐ[illegible]そのうこが

ねりあしてはうしの角のうしのかき

同

うき世とは[illegible]わうらぶほん

みとしたぐりの神にまりせて

古流のはちうふまりのく

なにかはやいてみたんをへは

うぐしつ月を雲ぐもの

そうぐにも世ときこえ

いけうまの[illegible]

ぬうしいまの[illegible]

ぬうしいまの[illegible]

はちうちうけきでゆく春は

花のうやうなやうちうの見よ

ひうちうのうへ

いけ春のうきとうでうぐて

ぬのうなへうかぐうのうふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京人あまたそこに入道のこと
松浦海のあまとまを刈るなり
ままのうへ人ちかうもあり
なつのよんの月のかりしほ
ちりぬるものゆゑ
しらやくあまやいつ
人々のこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]
くゆりよゆくそなたき
[illegible]

うへ人乃ちかうも雑てこゝへ足よ
なをうぶるうれしかりけ
伊勢へ出はあまを
うきあうの花ものあまがおのやき
[illegible]
いせじまやちりのうへにくく
[illegible]
源氏
伊勢へ乃はけうへさぐとねる
うきあいかくのうまものが
あまぐつむたびきれるふまちれて
いけまま
すまのうへにあのあん

あまの海ちう新よせのごとなりて
きげくも雲乃かゝる独うれ
すあまとはいとゝんなれ秋月海はまこと
きとけまどゆきの乃中納言乃もとゆ
ゆきとゆきとはいとゝんとゝろくいきま
えて又なくあまれうものはかゝる所の秋
なりもとうもとゝかすまとゝかるのしく
思ひしなくなれて海づゝ段を
おのつゝうゝ秋やまとゝん
かゝれあやなとゝ
たまつて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
月とともにかぐやのもとにかへりぬ
[illegible]

海よりまた神たちけるかぐやひめ

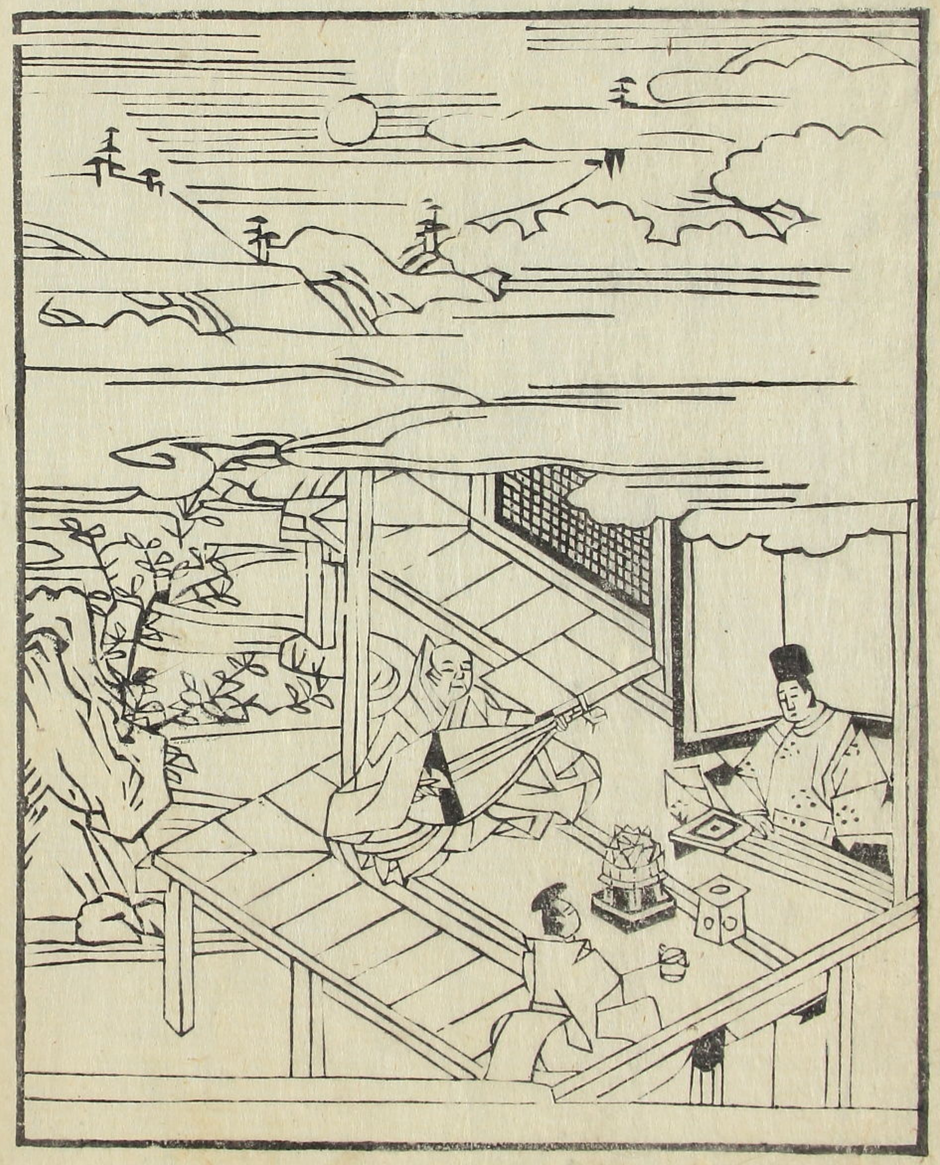
一りのかぐやひめ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

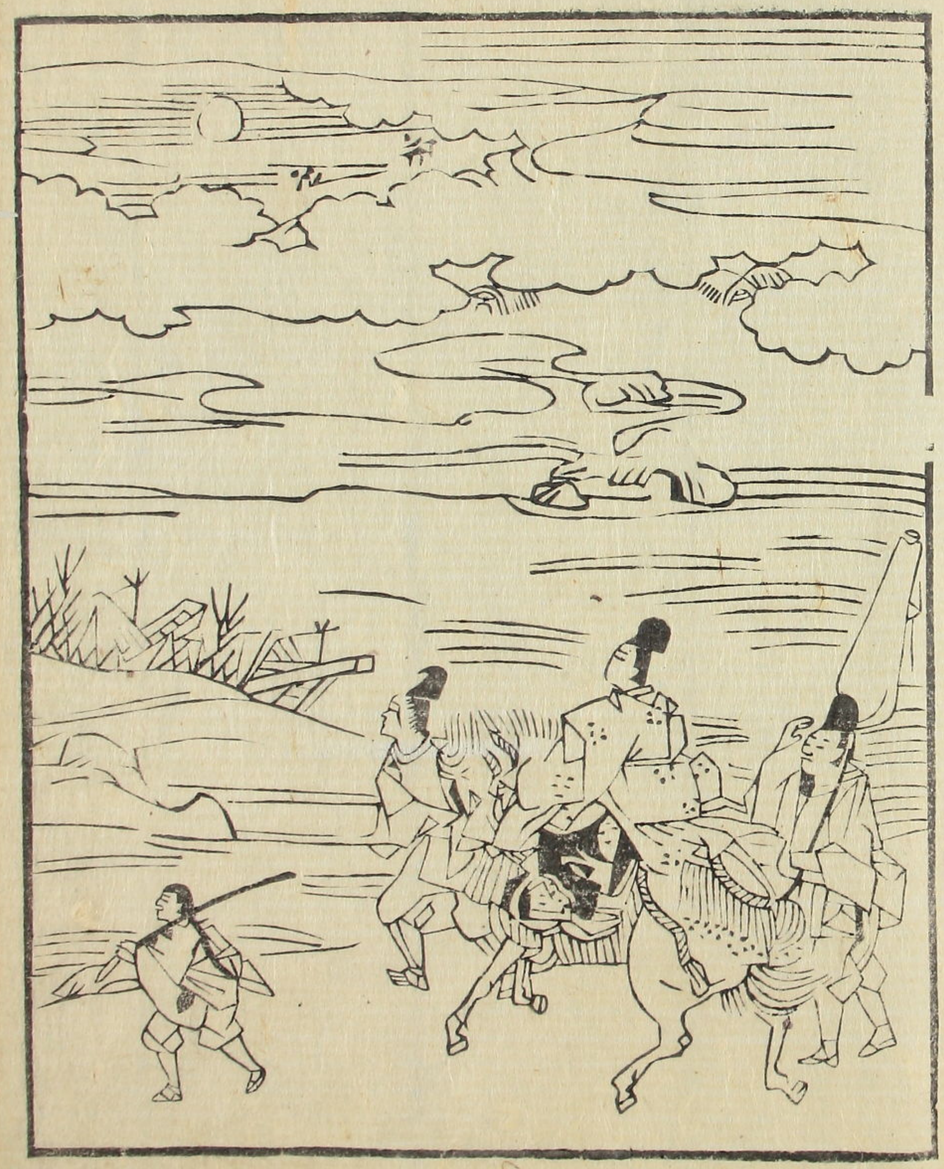
入道ハ年六十ばかりにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



むすめいとうつくしげにてゐたりけるを
うち入給へるにいとはづかしくて
なごむとうちなげきてのがれがたきものとは
おもひながらいとかくはづかしう思ひたるこそ
いづれもいづれもなかなかむつかしう
思ひやすらんとうちなげきて
もぐさをぬいとりてやがてよりうち
三月十三日神事の日さうぞくみで
乃ち書かせ給ひてのちそのうちの
はしりとりてとりつぎたてまつる

源氏の君なりまさるにたなびくを
まじく思ひつゝ源氏の君は物の
隙きまゝやうちとけいかゝるなどの
入るとてなびくめるときこゝろ
ゝ十三夜の月をやとゝ思ひ出て
おもふ人が物のうちもかくて
秋の明月なのこゝはよわづらふる
雲井かなきみのまとゝ入



むすめうせすまやしうかさいあをにみだきく
月入うこ戸口すこしとあるうち野体に
たゆうこのおのうねどもすうけあしさ海ま戸
さうとあるあ所ゆ死んんづうこもあぬ
いまいかくあつまうこうあるまたあるづうや
とあるりうやうちうきまれてうこうま
ひうれうとまどけのくかきまきづうとける
とうこんやなしいひうこうして源
むつどうかうあうちゆんん人りどか
うこうせれゆあをなうばさしやと
あのこあのあ所ゆやうこまどつうこうあい

いつまうかゆゆんうとけうてうこうん
むうこうのこれむ中かりうこうゆんをんの
あづてあうけうこうあるりて見うし
こうかうまばうをなどうこうかうこうより
みうあいあまのをこいうこうれうを
ひうこまうあうこうあるりいうこうかちぎうし
れううう海いこうえどあめどて
みどば月れるやこうるやうこうやうこいやんうを
けまた七月けるあまうこう高こうやうこうまうこう
せんどうこうはうの中こいあどやうどこんば海
と思のうこうこんうすがうこうばうこうあいを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と、歌文をかくるものの、
あるべきことなれども、
しかるに、歌は、海まもあれば、
源氏ばかりにもあらで、
つねにもて重みぞ、
かりそめにもあらぬ日、
あまりけうとくなりぬべき
歌文
きさらぎ
わかるるなごりをしみ
歌文と、
たがひてとのみ、
冷泉

[illegible]

[illegible]

たゆきをしたすぐるとのうしむぐ
まりのかりうかけうをある
あううたうもやまぐゆうみうの
もりけれをりをうけてちうん

答

年ううて卯月ぐうに深い芋ちう里へかつを
うてはかううあかぐ出さうれううを入を
姫君いさうあの芋ちうをうをうぐうかをうて
なうをうへとううたりうのひまるをうう

源

あ月うう新けうぐううへうう
たづねうもわをうをとうあ過ををく
ふううをうあをぐかりうのううを

源

[illegible]を[illegible]
[illegible]
年を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きて[illegible]
小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとのすけ春のこりやなやましくなりてはる
まもあるきのうち黄ようすけありてあるあま
しきんのうてけさ戻うつせこいあまりなおろう

第五段 源太夫

歌うたひ入百姓 方つかの女房

しきうちの一院 朱

ひとりなをうぐいすのこゑ

ちりてはかなきこのたきぎ

伊勢へおうまいりと引おく

うたひ

わたしはうたひうたひ

うたひうたひ

うたひやいとわし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風　源氏物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たかうの御のうちにさすらへて
ものうきまふみやこいできにしかどや
ひとりなかめにくらしはべらん
いきて又あひたてまつらん事かたかりけるく
うぐひすもきたりて世をとはせたまへん
かりにあひたてまつりあまづねの
そしりをもはらしたまふ
いとうとうゆきとけはてぬ
うきもあしのうへにかをるらん
大井のさとの中務の宮の上まきにまかりて
年をへてあづまにくだりはべりしかば
をかのうへにかきのこしはべりける
かたみとてとりあつめたる山里の
きくしにわかつ雲居をあ
わかつのあるかたびら
ひとへばかりにはわかつらん
源　ものうらひ姫君のいくあくまで
うきもうんあまの君の昔中務の宮の御ゆかりを
まさきのかづらくたれる
ふるさとのやどのあるじどもの
源　いとうとうやくの事をはかりとて
ものあるしやかりかりせる

月をあかしてをきてひとわたりぬ
ときは川原あるをとおもうて
てをうつ人をとがめ
時月のまむかへとうとうまなれば
うつれば
保宣 くもるものにちりまがうて
あさゆふ音をとまあ山里
保 めうとまてほうほうやけ
おもうばかりの
為和 うきをにたぐひぬひし月影の
まみうつ水をのぐけうへき

左大弁
雪はなほ乃とみうばかりて
いまの若草はかげくしもん
むすぶものとはちぐはあひあ
あるはれ姫まいぐさかつぐやとまぐる

うちをは保ホトトギスまて
明石のとはなほゆくまにかつれる
ふぐそうぐきうの秋をとをり海とをとく
富山をみやまのうちをかへれぐをと
をとかのへ松をとをとく
雪まあれをのとをとづねても

あるとき
[illegible]
姫君
[illegible]
[illegible]
[illegible]

姫君いこのかたにぞ
ものうちあるうち
とうちして無名めの
ぬしとうかるべきあもぎうつ
むかしのことあり北ぬぐ風ねぶらくす
してほうむつびうち年うてて源大井
よわうあ姫君宮のさまたにうと
ほうて三てうにうたらぐまりてあを史
ようとておうしもうきのと
舟ちむるとうと人乃なくはうを
あすうてうんせうもうち

ゆきてみるあてもなくねんもちくだ
ちくちくん（いこてろくとも
まれまるちくちくせうくんちゃうのその年世中
さつぐくてゐれてゐずまひ月日のひろ
まいてかうみるおぐろうきあてう入道きさろの
文書のちめうちうやくきくこ月ちうせ
始（三十七）うちものせ位とし
保
入日ひてみねしたるびくうちやとい
初夏人神ちいろやまづる
ひろうれ師の侍級年七年だうまうがは
入道れるのあうつる芸ゆ事れつあそたちや

きゆにうれてみうしいづくふきうめをを
そうくうきかるくきゆうくれをたるう
ひうふたうあそはのせまてうびあるふ
ゆしれうれ保れくん（そせたつくれをを
あそれてかくけるくまびるやれのひさ
ゆに天皇宮にはるつきまひびあれ保
つあそに即位のあひあうし宮そうれ
ひうふあう海きうしひくれ桃宮城ア
つの文あ
さつぐ世れうちういあつのとれん大所云
よたうあるけうつ云とこ一きざくあびく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

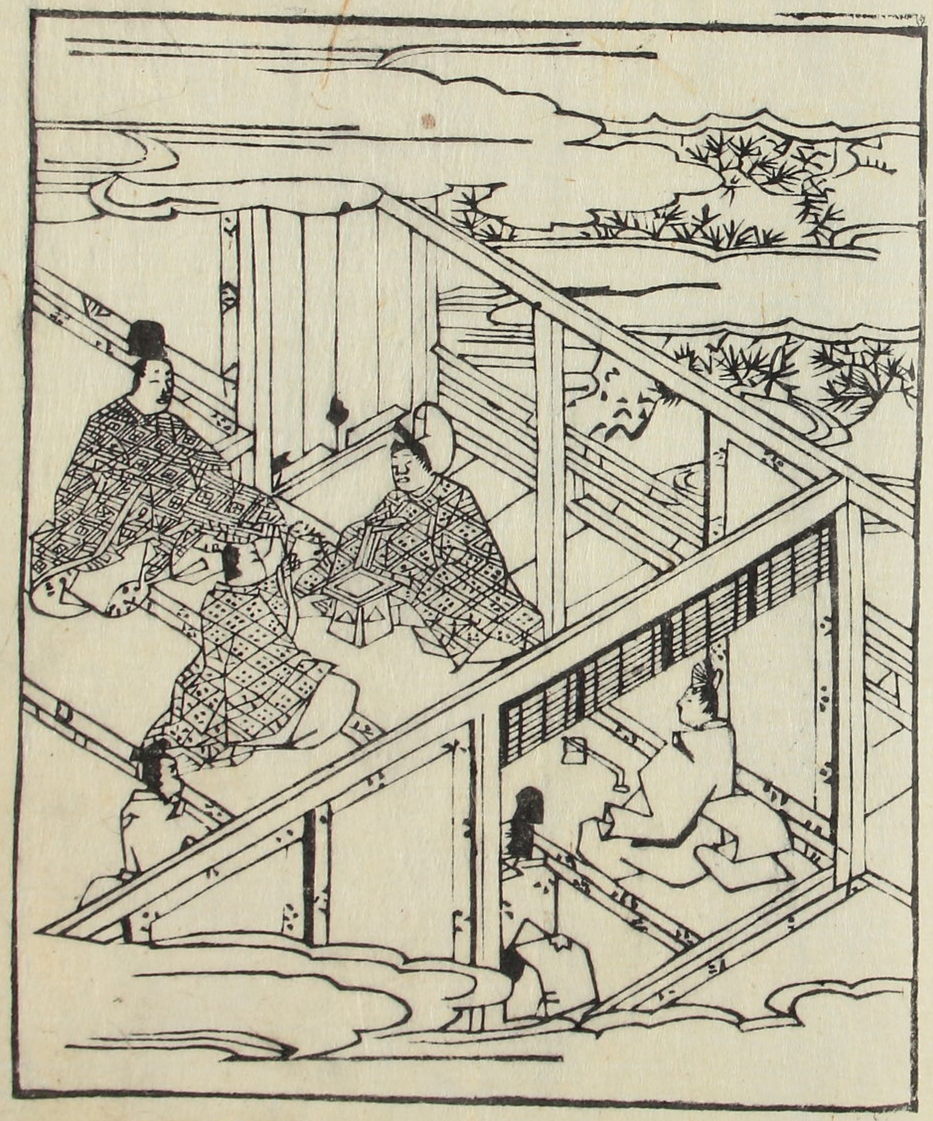
源

年ふれど心はいちぢるしくわすれず
あやとりいひ一さて
方をへてのちもまちをよび世まて
あやとりたるわすれやす
新風へまりあはせ
たちんものうたて源

[illegible]

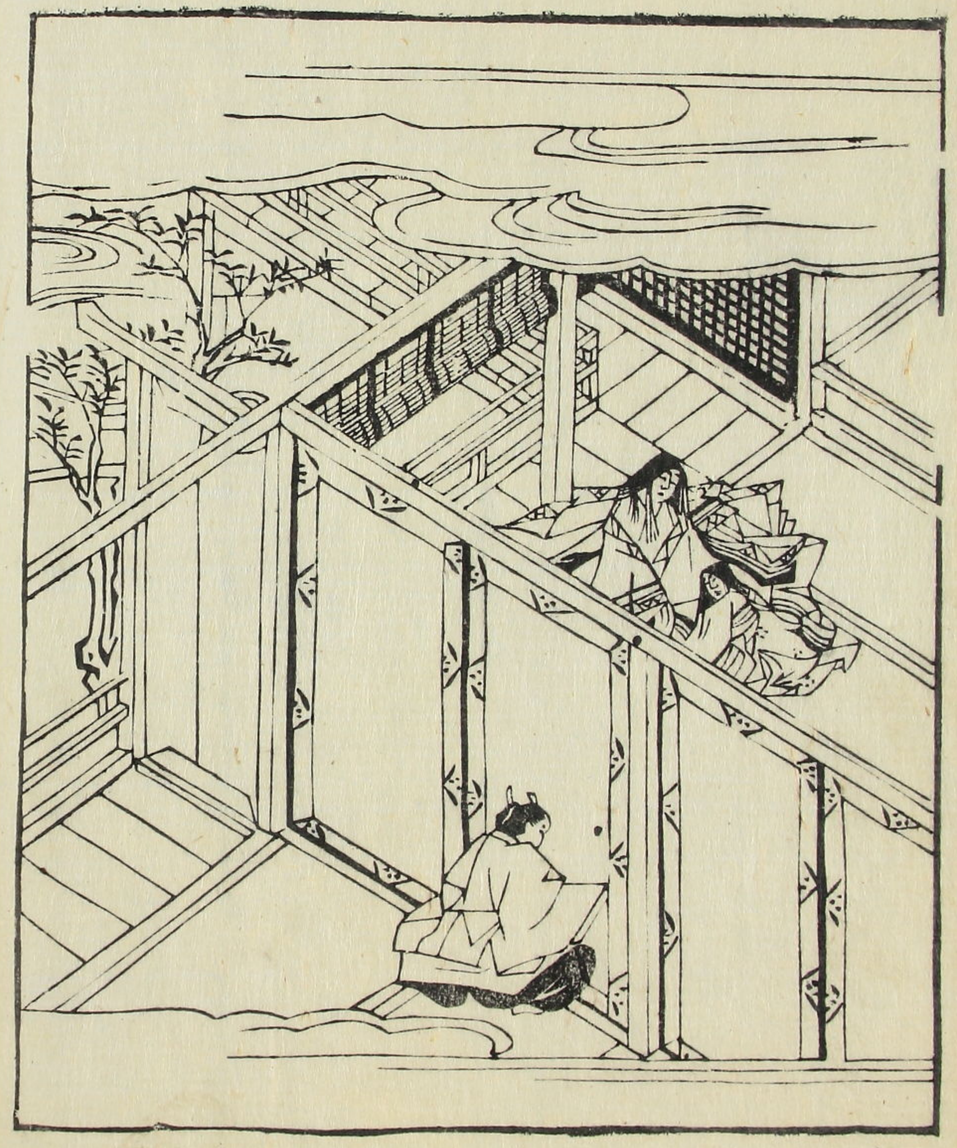
[illegible]

[illegible]



[illegible]ちんとへうる男ことき
きてうりはつとたうやいあさ海と[illegible]
しうたいたうこと[illegible]ものとうまれていたい
さうるんをかるひ世ふるごうるきばかぐく
をんをたう[illegible]ん事いとくたう
きおそひとをこのうり世うるはいへうる
はをしさうぐはつうりおうる書い
へよあうづうるにうあくたうゆうさ
はうるとを天ぐくれうりるうはうんとく
うをもめうはをはつ五月(さつき)と中うう
史記をうへうをはう

大和八四方にたゝなはり[illegible]
おつまきて四むすめいとゝさでんのあゆと
と一とゝ[illegible]あり[illegible]
ひとり行て[illegible]
車[illegible]車たゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

文章

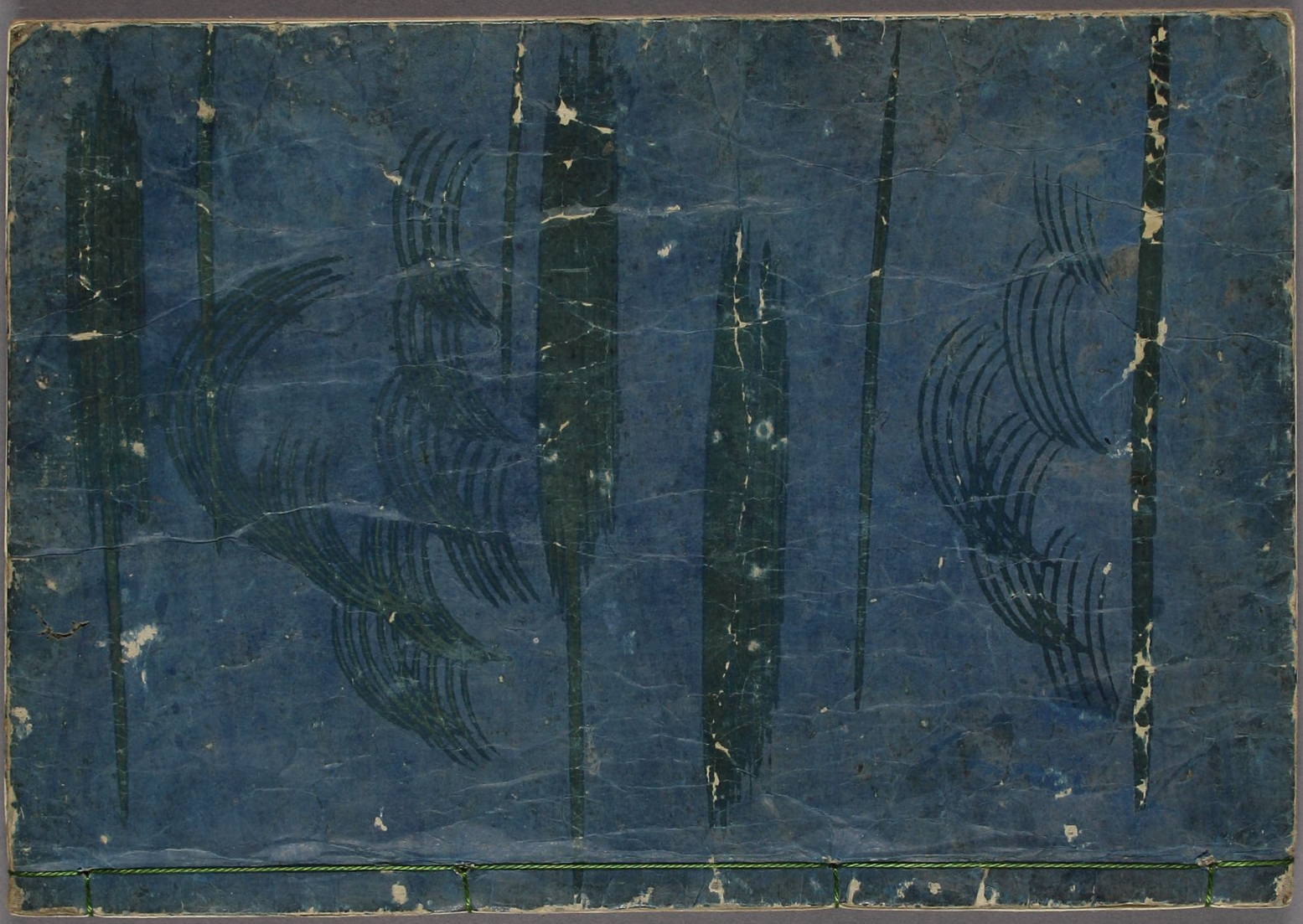
雲こほるまうそもとるあはれ乃
そらかきくらしゆるあるとうれ
大とのうちおとしみせうたてまほう好
奉姫いとまうれがむすめあうきよがむまを
惟光のむすめあれきを井の乃の程とだてて
ありしぶいまうてみえけるは又雪たち
うきあのすそなひきうどうく
あめふまよわうびあれみやへと
まううなびてたうなわすうる

大内の昔よりたえぬ家にて
ものゝ子の神さびぬるしるしあり神
ゆるしをこそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

冷泉

乃人ほつ寸乃ねさへかたそ
うちとけむ　ぬこいてさへほろ
こばまえ　元乃らやわせる
ク人雪ハ寸日ス人うつ　ゆ　ゆて　ゆ　ま
ゆに行給ふ　ス人　大ゆ　まる　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
てつつゆ八月ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]